

対象校No. 286
注4

学校コード F101310100365
注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 学部の学科の設置
注1

認可

注2

日本医療大学

保健医療学部

臨床工学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正後大学設置基準適用)

学校法人日本医療大学
令和8年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 企画法務グループ

職名・氏名

電話番号 011-351-6100

(夜間)

e-mail houjin-g@jhu.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(令和◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・「〇〇短期大学 △△学科」
・「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)」
・「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和8年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

保健医療学部

<臨床工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	20
4. 既設大学等の状況	21
5. 教育研究実施組織の状況	22
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人日本医療大学

(2) 大学名

日本医療大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒062-0053

北海道札幌市豊平区月寒東三条11-1-50

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ツシマ ノリアキ) 対馬 徳昭 (平成5年4月)		
学長	(オオタ マコト) 太田 誠 (令和2年4月)	(ミヤモト アツシ) 宮本 篤 (令和8年4月)	任期满了に伴い、学長の変更(8)
学部長	(オノ サチコ) 小野 幸子 (令和4年4月)		
学科長等	(チハラ シンヤ) 千原 伸也 (令和4年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

()書きで記入してください。

(例) 令和7年度に報告する内容 → (7)

令和8年度に報告する内容 → (8)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和8年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
保健医療学部 臨床工学科 学士(臨床工学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	4年	60人	0人 2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	240人	-	

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1)又は(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	-	-	60	-	60	-	60	-	60	-	60	-	-	0.37倍	-倍	第一志望者数
志願者数	-	-	45	-	40	-	25	-	36	-	21	-	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳			
受験者数	-	-	42	-	40	-	25	-	34	-	21	-				
合格者数	-	-	40	-	36	-	24	-	31	-	19	-				
B 入学者数	-	-	36	-	36	-	19	-	25	-	17	-				
入学定員超過率 B/A	-	-	0.60	-	0.60	-	0.31	-	0.41	-	0.28	-				

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和9年度開設用) IV.33 収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	36	-	44	-	25	-	26	-	18	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(8)	(-)	(6)	(-)	(1)	(-)	(1)	(-)	
2年次			-	-	26	-	34	-	19	-	24	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	
3年次					-	-	23	-	32	-	19	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	
4年次							-	-	23	-	30	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	36	-	70	-	82	-	100	-	91	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(8)	(-)	(8)	(-)	(1)	(-)	(5)	(-)	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学生数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和3年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	36 人	2 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	2 人	- 人	学力不足(2人)
令和5年度	70 人	7 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	3 人	- 人	進路変更(3人)
			令和5年度	4 人	- 人	進路変更(1人)、学業不振(1人)、学生生活への適応困難(2人)
令和6年度	82 人	7 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	1 人	- 人	学業不振(1人)
			令和5年度	4 人	- 人	除籍(1人)、進路変更(2人)、学生個人の心身に関する事情(1人)
			令和6年度	2 人	- 人	除籍(1人)、学力不足(1人)
令和7年度	100 人	3 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	1 人	- 人	修学意欲の低下(1人)
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	2 人	- 人	他の教育機関への入学・転学(2人)
令和8年度	91 人	0 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	- 人	- 人	
			令和8年度	- 人	- 人	
合計		19 人		19 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{2}{38} = \boxed{5.26} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{7}{77} = \boxed{9.09} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{7}{89} = \boxed{7.86} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{3}{103} = \boxed{2.91} \%$$

【令和8年度】

$$\frac{\text{令和8年度の退学者数(a)}}{\text{令和8年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{91} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 臨床工学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	心理学	1前	1								1	
	生命科学	1後	1								1	
	コミュニケーション学	1後	1								1	
	倫理学	1前		1							1	
	生命倫理	1後		1							1	
	医療と哲学	1後		1							1	
	人間関係の科学	1前		1							1	
	文化人類学	1後		1							1	
	医療と社会	1後		1							1	
	法学	1前		1							1	
	教育学	1前		1							1	
	北海道史	1前		1							1	
	ポランディア論	2前		1							1	
	-	-										
	科学的思考の基盤	物理学(基礎)	1前	1								1
		物理学(応用)	1後		1							1
		化学	1前		1							1
		生物学	1後		1							1
		生活と運動	1前	1								1
		健康とスポーツ	1前		1							1
数学		1前		1							1	
数学(統計学)		1後		1							1	
-	-											
語学	日本語表現	1前		1							1	
	英語 I	1前	1								1	
	英語 II	1後	1								1	
	英語 III	3前		1							1	
	医療英語	2後	1			1	1					
	中国語	1後		1							1	
韓国語	2前		1							1		
小計(28科目)	-	10	18	0	1	1	0	0	0	13		
専門基礎教	解剖生理学 I	1前	2			1	1					
	解剖生理学 II	1前	2			1	1					
	解剖生理学演習	1後	1			1	2					
	分子医化学	1後	2			1						
	-	-										
	応用数学	1前	1			2						
	機械工学 I	2前	2			1						
	機械工学 II	2後	2			1						
	電気工学 I	1前	2			1						
	電気工学 II	1後	2			1						
	電子工学 I	2前	2			1						
	電子工学 II	2後	2			1						
	材料工学	2前	2								1	
	物性工学	1後	2								1	
計測工学	1後	2			1							
電気工学実習	1後	1			1		1					
電子工学実習	2前	1			2							
臨床工学応用演習	4通	1			2							
-	-											

【令和8年度】 (新カリキュラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					基幹教員(助手)以外専任の	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	スタートアップ講座	1前		1							1	1	
	心理学	1前		1								1	
	生命科学	1後		1								1	
	コミュニケーション学	1後		1								1	
	倫理学	1前			1							1	
	生命倫理	1後			1							1	
	医療と哲学	1後			1							1	
	人間関係の科学	1前			1							1	
	文化人類学	1後			1							1	
	医療と社会	1後			1							1	
	法学	1前			1							1	
	教育学	1前			1							1	
	北海道史	1前			1							1	
	健康とスポーツ	1前			1							1	
	ポランディア論	3前			1							1	
	小計(17科目)	-			4	13	0	0	0	0	1	0	19
	科学的思考の基盤	物理学 I	1前		1								1
		物理学 II	1後		1								1
		化学	1前		1								1
		生物学	1後		1								1
数学 I		1前		2					1				
数学 II		1後		1					1				
数学 III	3後		1					1					
小計(7科目)	-			8	0	0	0	0	1	0	3		
語学	日本語表現	1前		1								1	
	英語 I	1前		1								1	
	英語 II	2後		1								1	
	英語 III	3前		1								1	
	中国語	1後			1							1	
	韓国語	3前			1							1	
小計(6科目)	-			3	3	0	0	0	0	0	4		
人体の構造と機能	解剖生理学 I	1前	○	2						1		1	
	解剖生理学 II	1前	○	2						1		1	
	解剖生理学演習	1後	○	2						2			
	生化学	1後		1								1	
	生体防衛学	1後		1								1	
小計(5科目)	-			8	0	0	0	0	0	2	3		
臨床工学に必要な医学的基礎	医療総論	1前		1								1	
	病理学	2後		2								1	
	微生物学	2後		2								1	
	臨床薬理概論	3前		1			1					1	
	公衆衛生学	2後		1								1	
	医療コミュニケーション論	4前		1								2	
	チーム医療論	3前		1			1					1	
小計(7科目)	-			9	0	0	1	0	0	0	6		
専門基礎	機械工学	2前	○	2						1			
	電気工学 I	1前	○	2						1			
	電気工学 II	1後	○	2						1			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
前科目	医療総論	1前	1			1						2	
	臨床工学総論	1後	1			1	1	2					
	病理学	2前	2									1	
	分子病態生理学	3前	1			1							
	生体防衛学	1後	1									1	
	微生物学	2後	2									1	
	臨床薬理概論	3前	1									1	
	公衆衛生学	2後	2									1	
	チーム医療	4後	1				2	2					
		-											
	情報処理 I	1前	2			1							
	情報処理 II	1後		2		1		1					
	システム工学	2前	2			1							
医療情報学	1後		2		1								
プロジェクトスキル I	2後	1				1							
プロジェクトスキル II	3後	1			1	2							
小計(32科目)	-	41	10	0	4	2	2	0	0		5		
専門教育科目	医用工学概論	1後	2			1							
	医用機器学概論 I	2後	2					1					
	医用機器学概論 II	2後	2					1					
	医用工学演習 I	2前	1			2							
	医用工学演習 II	4後	1			2							
		-											
	医用治療機器学	2前	2				1						
	医用治療機器学演習	4後	1				1						
	医用治療機器学実習	3前	1					2					
	生体計測装置学	2前	4			1							
	生体計測装置学演習	4後	1			1		1					
	生体計測装置学実習	3前	1			1		2					
	循環器治療機器学 I	2後	1				1						
循環器治療機器学 II	3後	2				1							
消化器治療機器学	2後	1				1							
臨床機器学各論 I	3後		1			1					1		
臨床機器学各論 II	3後		1			1					1		
臨床機器学各論 III	3後		1			1					1		
臨床機器学各論 IV	3後		1			1					1		
	-												
生体機能代行装置学 I	2前	4				1							
生体機能代行装置学 II	3後	2				1					1		
生体機能代行装置学 III	4前	2				1					1		
血液透析療法装置学 I	3前	2				1							
血液透析療法装置学 II	4前	2				1							
血液浄化療法装置学	3後		1			1					1		
呼吸療法装置学	3後		1			1					1		
体外循環療法装置学	3後		1			1					1		
生体機能代行装置学実習 I	2後	1				1	1	2			6		
生体機能代行装置学実習 II	3後	2				1	2	2			6		
	-												
医用機器安全管理学 I	2前	2				1							
医用機器安全管理学 II	3前	2					1						
医用機器安全管理学実習	3後	1			1		2						
医療安全管理学	4通	2				1							
	-												
臨床医学総論 I	2後	1				1							
臨床医学総論 II	3前	1				1							
臨床医学総論 III	3前	1				1							
臨床医学総論 IV	3後	1				1							
臨床医学総論 V	3後	1				1							
臨床医学演習	4通	2			2	1							
	-												
臨床実習	4前	4				5	2	2					
	-												

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					教員数(専任・兼任・助手以外)	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
前科目	電子工学	2前	○	2								1	
	計測工学	1後	○	1			1						
	基礎理工学総合 I	2後			1				1	1			
	基礎理工学総合 II	3後			1				1	1			
	基礎理工学総合 III	4後			2		1			1			
	基礎理工学実習 I	1後	○	1			1				1		
	基礎理工学実習 II	2後	○	1					1	1			
	基礎理工学演習 I	1前	○	1			1			1			
	基礎理工学演習 II	3前	○	1					1	1			
	基礎理工学演習 III	4通	○	2			1			1			
	小計(13科目)				15	4	0	1	0	1	1	1	0
	臨床工学に必要な理工学的基础	情報処理	1前			1			1				
		情報科学	1後			1							1
医療情報学		2前			2			1					
システム工学		3前			2							1	
医療倫理情報学		2後			2				1	1			
小計(5科目)					6	2	0	1	1	1	0	2	
臨床工学に必要な医療情報学	臨床工学概論	1前	○	1					1		1	3	
	臨床工学概論演習	1前	○	1					1	1			
	材料工学 I	2前		1								1	
	材料工学 II	3前			1							1	
	物性工学 I	1後		1								1	
	物性工学 II	3後			1							1	
	医用工学概論	1後	○	2						1	1		
	医用工学概論演習 I	2前	○	1						1	1		
	医用工学概論演習 II	4後	○	1					1		1		
	小計(9科目)				8	2	0	1	1	2	2	4	
	医用生体工学	医用治療機器学	2前	○	2								1
		医用治療機器学演習	4後	○	1						1	1	
		生体計測装置学 I	2前	○	1								1
生体計測装置学 II		2前	○	1								1	
生体計測技術学		2後	○	1								1	
生体計測装置学演習 I		2前	○	1								2	
生体計測装置学演習 II		4後	○	1								2	
生体計測技術学実習		3前	○	1			1	1	1		3		
循環器治療機器学 I		2後	○	1					1				
循環器治療機器学 II		3前	○	1					1			2	
循環器治療機器学 III		3後	○	1					1				
消化器治療機器学		2後	○	1						1		1	
臨床機器学各論 I		3後			1					1		1	
臨床機器学各論 II	3後			1					1		1		
臨床機器学各論 III	3後			1					1		1		
臨床機器学各論 IV	3後			1					1		1		
臨床支援技術学	3前	○	2						1		5		
臨床支援技術学実習	4前	○	1					1			3		
小計(18科目)				16	4	0	1	1	1	3	13		
生体機能代行技術学	生体機能代行装置学 I	2前	○	4					1		2		
	生体機能代行装置学 II	3後	○	2				1				1	
	生体機能代行装置学 III	4前	○	2				1		1		1	
	血液透析療法装置学 I	3前	○	2				1				1	
	血液透析療法装置学 II	4前	○	2				1				1	
	血液浄化療法装置学	3後			1				1			1	
	呼吸療法装置学	3後			1						1	1	
	体外循環療法装置学	3後			1						1	1	
	生体機能代行装置学演習 I	2後	○	1					1	1	2	9	
	生体機能代行装置学演習 II	3通	○	1				1	2			8	
	生体機能代行装置学実習 I	2後	○	1				1	1	1	3	5	
	生体機能代行装置学実習 II	3後	○	2				1	1	1	2	6	
	生体機能代行技術応用実習	3後	○	1				2	1	2	3		
小計(13科目)				18	3	0	2	1	2	3	26		
医療	医用機器安全管理学 I	2前	○	2								1	
	医用機器安全管理学 II	3前	○	1						1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
卒業研究	卒業研究	4通	4			5	2	2				
	小計(40科目)	-	59	7	0	5	2	2	0	0	16	
合計(100科目)			-	110	35	0	5	2	2	0	0	34
卒業要件及び履修方法												
必修科目110単位、基礎教育科目の選択科目から8単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限45単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					教員(教員以外)	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
安全管理学	医用機器安全管理学実習	3後	○	1			1	1	1	2			
	医療安全管理学	4通	○	2				1	1				
小計(4科目)					6	0	0	1	1	1	2	0	
関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	2後	○	1			2						
	臨床医学総論Ⅱ	3前	○	1			1	1	1				
	臨床医学総論Ⅲ	3前	○	1			1			1			
	臨床医学総論Ⅳ	3前	○	1			1	1					
	臨床医学総論Ⅴ	3前	○	1						1	1		
	臨床医学演習	4通	○	2			1	1	1	2			
小計(6科目)					7	0	0	2	1	1	2	1	
臨床実習	臨床実習	4前	○	7			2	1	2	3			
	小計(1科目)			7	0	0	2	1	2	3	0		
卒業研究	卒業研究	4通	○	4			2	1	2	3			
	小計(1科目)			4	0	0	2	1	2	3	0		
合計(112科目)				-	119	31	0	4	1	2	3	0	76
卒業要件及び履修方法													
必修科目119単位、基礎教育科目の選択科目から8単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、130単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限45単位(年間))													

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	人間と生活及び社会の理解	心理学	1前	1								1
		生命科学	1後	1								1
		コミュニケーション学	1後	1								1
		倫理学	1前		1							1
		生命倫理	1後		1							1
		医療と哲学	1後		1							1
		人間関係の科学	1前		1							1
		文化人類学	1後		1							1
		医療と社会	1後		1							1
		法学	1前		1							1
		教育学	1前		1							1
		北海道史	1前		1							1
		ポランディア論	2前		1							1
		科学的思考の基盤	物理学(基礎)	1前	1							
	物理学(応用)		1後		1							1
	化学		1前		1							1
	生物学		1後		1							1
	生活と運動		1前	1								1
	健康とスポーツ		1前		1							1
	数学		1前	1								1
	数学(統計学)		1後	1								1
	語学	日本語表現	1前		1							1
		英語 I	1前		1							1
		英語 II	1後		1							1
		英語 III	3前		1							1
		医療英語	2後		1		1					1
		中国語	1後		1							1
	韓国語	2前		1							1	
小計(28科目)	-	-	10	18	0	1	0	0	0	0	16	
専門基礎教育科目	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1前	2			1			0		0
		解剖生理学 II	1前	2			1	1		0		0
		解剖生理学演習	1後	1			1	1		0		0
		分子医化学	1後	2			1					0
	臨床工学に必要な理工学的基础	応用数学	1前	1			2					
		機械工学 I	2前	2					1			
		機械工学 II	2後		2		1					
		電気工学 I	1前	2					1			
		電気工学 II	1後	2					1			
		電子工学 I	2前	2					1			
		電子工学 II	2後		2		1		1			
		材料工学	2前	2								1
		物性工学	1後		2							1
		計測工学	1後	2			1					
		電気工学実習	1後	1			1		1			
		電子工学実習	2前	1			1			1		
		基礎工学演習 I	1前	1					1	1		
		基礎工学演習 II	3前	1					1	1		
	基礎工学演習 III	4後	2			1		1				
	臨床工学応用演習	4通	1			1		1				
	臨床工学に必要な医学的基础	医療総論	1前	1			1					2
		臨床工学総論	1後	1					1			3
		病理学	2前	2								1
		分子病態生理学	3前	1			1					
		生体防御学	1後	1								1
		微生物学	2後	2								1
		臨床薬理概論	3前	1								1
		医療コミュニケーション論	4前	1								1
公衆衛生学		2後	2								1	
チーム医療		4後	1			1		2				
小計(28科目)	-	-	10	18	0	1	0	0	0	0	16	

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	人間と生活及び社会の理解	心理学	1前	1								1
		生命科学	1後	1								1
		コミュニケーション学	1後	1								1
		倫理学	1前		1							1
		生命倫理	1後		1							1
		医療と哲学	1後		1							1
		人間関係の科学	1前		1							1
		文化人類学	1後		1							1
		医療と社会	1後		1							1
		法学	1前		1							1
		教育学	1前		1							1
		北海道史	1前		1							1
		ポランディア論	2前		1							1
		科学的思考の基盤	物理学(基礎)	1前	1							
	物理学(応用)		1後		1							1
	化学		1前		1							1
	生物学		1後		1							1
	生活と運動		1前	1								1
	健康とスポーツ		1前		1							1
	数学		1前	1								1
	数学(統計学)		1後	1								1
	語学	日本語表現	1前		1							1
		英語 I	1前		1							1
		英語 II	1後		1							1
		英語 III	3前		1							1
		医療英語	2後		1		1					1
		中国語	1後		1							1
	韓国語	2前		1							1	
小計(28科目)	-	-	10	18	0	1	0	0	0	0	16	
専門基礎教育科目	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1前	2			1			0		0
		解剖生理学 II	1前	2			1	1		0		0
		解剖生理学演習	1後	1			1	1		0		0
		分子医化学	1後	2			1					0
	臨床工学に必要な理工学的基础	応用数学	1前	1			2					
		機械工学 I	2前	2					1			
		機械工学 II	2後		2		1					1
		電気工学 I	1前	2						1		
		電気工学 II	1後	2						1		
		電子工学 I	2前	2						1		
		電子工学 II	2後		2		1		1			
		材料工学	2前	2								1
		物性工学	1後		2							1
		計測工学	1後	2			1					
		電気工学実習	1後	1			1		1			
		電子工学実習	2前	1			1				1	
		基礎工学演習 I	1前	1						1	1	
		基礎工学演習 II	3前	1						1	1	
	基礎工学演習 III	4後	2			1		1				
	臨床工学応用演習	4通	1			1		1				
	臨床工学に必要な医学的基础	医療総論	1前	1			1					2
		臨床工学総論	1後	1						1		3
		病理学	2前	2								1
		分子病態生理学	3前	1			1					
		生体防御学	1後	1								1
		微生物学	2後	2								1
		臨床薬理概論	3前	1								1
		医療コミュニケーション論	4前	1								1
公衆衛生学		2後	2						1		1	
チーム医療		4後	1			1		2				
小計(28科目)	-	-	10	18	0	1	0	0	0	0	16	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床工学に必要となる基礎的知識の修得とシステム工学に必要となる基礎的知識の修得	情報処理Ⅰ	1前	2			1						
	情報処理Ⅱ	1後	2	2		1		1				
	システム工学	2前	2								1	
	医療情報学	1後	2			1						
	プロジェクトスキルⅠ	2後	1							1		1
	プロジェクトスキルⅡ	3後	1			1	1			1		
小計(36科目)		-	46	10	0	4	1	3	1	0	11	
医用生体工学	医用工学概論	1後	2					1				
	医用機器学概論Ⅰ	1後	2					1				
	医用機器学概論Ⅱ	2後	2					1				
	医用工学演習Ⅰ	2前	1			2						
	医用工学演習Ⅱ	4後	1			2						
	医用治療機器学	2前	2				1					
	医用治療機器学演習	4後	1				1					
	医用治療機器学実習	3前	1					2	1			
	生体計測装置学	2前	4			1				1		
	生体計測装置学演習	4後	1			1		1	1			
	生体計測装置学実習	3前	1			1		2	1			
	循環器治療機器学Ⅰ	2後	1				1					
	循環器治療機器学Ⅱ	3後	2				1				1	
	消化器治療機器学	2後	1				1				1	
	臨床機器学各論Ⅰ	3後	1				1				1	
	臨床機器学各論Ⅱ	3後	1				1				1	
	臨床機器学各論Ⅲ	3後	1				1				1	
	臨床機器学各論Ⅳ	3後	1				1				1	
	臨床支援技術学基礎演習	1前	1				1	1	2			
臨床支援技術学	3前	2						1			5	
臨床支援技術学実習	4前	1				1					3	
医用機器学及び臨床支援技術学	生体機能代行装置学Ⅰ	2前	4				1			1		
	生体機能代行装置学Ⅱ	3後	2				1				2	
	生体機能代行装置学Ⅲ	4前	2				1				1	
	血液透析療法装置学Ⅰ	3前	2				1				1	
	血液透析療法装置学Ⅱ	4前	2				1				1	
	血液浄化療法装置学	3後	1			1					1	
	呼吸療法装置学	3後	1				1				1	
	体外循環療法装置学	3後	1				1				1	
	生体機能代行装置学演習Ⅰ	2後	1				1				9	
	生体機能代行装置学演習Ⅱ	3通	1				1			1	7	
	生体機能代行装置学実習Ⅰ	2後	1				1	1	2	1	5	
	生体機能代行装置学実習Ⅱ	3後	2				1	1	2	1	7	
	医用安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	2前	2				1				
医用機器安全管理学Ⅱ		3前	2					1				
医用機器安全管理学実習		3後	1				1		2			
医療安全管理学		4通	2				1					
関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	2後	1				1					
	臨床医学総論Ⅱ	3前	1				1					
	臨床医学総論Ⅲ	3前	1				1					
	臨床医学総論Ⅳ	3後	1				1					
	臨床医学総論Ⅴ	3後	1				1					
	臨床医学演習	4通	2				2	1				
臨床実習	4前	7				1	1	2	1			
卒業研究	4通	4				2	1	3	1			
小計(49科目)		-	68	7	0	4	1	3	1	0	38	
合計(109科目)		-	35	0	9	4	1	3	1	65	68	
卒業要件及び履修方法												
必修科目124単位、基礎教育科目の選択科目から8単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、138単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限45単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床工学に必要となる基礎的知識の修得とシステム工学に必要となる基礎的知識の修得	情報処理Ⅰ	1前	2			1						
	情報処理Ⅱ	1後	2	2		1		1				
	システム工学	2前	2								1	
	医療情報学	1後	2			1						
	プロジェクトスキルⅠ	2後	1								1	
	プロジェクトスキルⅡ	3後	1			1	1			1		
小計(36科目)		-	46	10	0	4	1	3	1	0	11	
医用生体工学	医用工学概論	1後	2						1			
	医用機器学概論Ⅰ	1後	2						1			
	医用機器学概論Ⅱ	2後	2						1			
	医用工学演習Ⅰ	2前	1					2				
	医用工学演習Ⅱ	4後	1					2				
	医用治療機器学	2前	2				1					
	医用治療機器学演習	4後	1				1					
	医用治療機器学実習	3前	1					2	1			
	生体計測装置学	2前	4				1			1		
	生体計測装置学演習	4後	1				1		1	1		
	生体計測装置学実習	3前	1				1		2	1		
	循環器治療機器学Ⅰ	2後	1				1					
	循環器治療機器学Ⅱ	3後	2				1				1	
	消化器治療機器学	2後	1				1				1	
	臨床機器学各論Ⅰ	3後	1				1				1	
	臨床機器学各論Ⅱ	3後	1				1				1	
	臨床機器学各論Ⅲ	3後	1				1				1	
	臨床機器学各論Ⅳ	3後	1				1				1	
	臨床支援技術学基礎演習	1前	1					1	1	2		
臨床支援技術学	3前	2							1		5	
臨床支援技術学実習	4前	1					1				3	
医用機器学及び臨床支援技術学	生体機能代行装置学Ⅰ	2前	4				1			1		
	生体機能代行装置学Ⅱ	3後	2				1				2	
	生体機能代行装置学Ⅲ	4前	2				1				1	
	血液透析療法装置学Ⅰ	3前	2				1				1	
	血液透析療法装置学Ⅱ	4前	2				1				1	
	血液浄化療法装置学	3後	1			1					1	
	呼吸療法装置学	3後	1				1				1	
	体外循環療法装置学	3後	1				1				1	
	生体機能代行装置学演習Ⅰ	2後	1				1				9	
	生体機能代行装置学演習Ⅱ	3通	1						1		7	
	生体機能代行装置学実習Ⅰ	2後	1				1	1	2	1	5	
	生体機能代行装置学実習Ⅱ	3後	2				1	1	2	1	7	
	医用安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	2前	2						1		
医用機器安全管理学Ⅱ		3前	2						1			
医用機器安全管理学実習		3後	1						1	2		
医療安全管理学		4通	2						1			
関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	2後	1				1					
	臨床医学総論Ⅱ	3前	1				1					
	臨床医学総論Ⅲ	3前	1				1					
	臨床医学総論Ⅳ	3後	1				1					
	臨床医学総論Ⅴ	3後	1				1					
	臨床医学演習	4通	2				2	1				
臨床実習	4前	7				1	1	2	1			
卒業研究	4通	4				2	1	3	1			
小計(49科目)		-	68	7	0	4	1	3	1	0	38	
合計(109科目)		-	35	0	9	4	1	3	1	65	68	
卒業要件及び履修方法												
必修科目124単位、基礎教育科目の選択科目から8単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、138単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限45単位(年間))												

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	心理学	1前	1								1
	生命科学	1後	1								1
	コミュニケーション学	1後	1								1
	倫理学	1前		1							1
	生命倫理	1後		1							1
	医療と哲学	1後		1							1
	人間関係の科学	1前		1							1
	文化人類学	1後		1							1
	医療と社会	1後		1							1
	法学	1前		1							1
	教育学	1前		1							1
	北海道史	1前		1							1
	ポランディア論	2期		1							1
	物理学(基礎)	1前	1								1
	物理学(応用)	1後		1							1
	化学	1前		1							1
	生物学	1後		1							1
	生活と運動	1前	1								1
	健康とスポーツ	1前		1							1
	数学	1前		1							1
	数学(統計学)	1後		1							1
	日本語表現	1前		1							1
	英語 I	1前		1							1
	英語 II	1後		1							1
	英語 III	3前		1							1
	医療英語	2後		1		1					1
	中国語	1後		1							1
	韓国語	2前		1							1
小計(28科目)	-	-	10	18	0	1	0	0	0	0	15
専門基礎教育科目	解剖生理学 I	1前	2			1			1		
	解剖生理学 II	1前	2			1	1		1		
	解剖生理学演習	1後	1			1	1		1		
	分子医化学	1後	2			1					
	応用数学	1前	1		2						
	機械工学 I	2前	2		1		1				
	機械工学 II	2後	2	2	1						
	電気工学 I	1前	2		1		1				
	電気工学 II	1後	2		1		1				
	電子工学 I	2前	2		1		1				
	電子工学 II	2後	2	2	1		1				
	材料工学	2前	2								1
	物性工学	1後	2	2							1
	計測工学	1後	2		1						
	電気工学実習	1後	1		1		1				1
	電子工学実習	2前	1		2						2
	基礎工学演習 I	1前	1		1		1				
	基礎工学演習 II	3前	1		1		1				1
	基礎工学演習 III	4後	2		1		1				1
	臨床工学応用演習	4通	1			1	1				1
	医療総論	1前	1			1					2
	臨床工学総論	1後	1				1	1			3
	病理学	2前	2								1
	分子病態生理学	3前	1		1						1
	生体防御学	1後	1								1
	微生物学	2後	2								1
	臨床薬理概論	3前	1							1	
	医療コミュニケーション論	4前	1								1
公衆衛生学	2後	2								1	
チーム医療	4後	1			1	2				1	

【令和8年度】 (旧カリキュラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	心理学	1前	1								1
	生命科学	1後	1								1
	コミュニケーション学	1後	1								1
	倫理学	1前		1							1
	生命倫理	1後		1							1
	医療と哲学	1後		1							1
	人間関係の科学	1前		1							1
	文化人類学	1後		1							1
	医療と社会	1後		1							1
	法学	1前		1							1
	教育学	1前		1							1
	北海道史	1前		1							1
	ポランディア論	2期		1							1
	物理学(基礎)	1前	1								1
	物理学(応用)	1後		1							1
	化学	1前		1							1
	生物学	1後		1							1
	生活と運動	1前	1								1
	健康とスポーツ	1前		1							1
	数学	1前		1						1	0
	数学(統計学)	1後		1						1	0
	日本語表現	1前		1							1
	英語 I	1前		1							1
	英語 II	1後		1							1
	英語 III	3前		1							1
	医療英語	2後		1							1
	中国語	1後		1							1
	韓国語	2前		1							1
小計(28科目)	-	-	10	18	0	0	0	2	0	0	10
専門基礎教育科目	解剖生理学 I	1前	2							1	1
	解剖生理学 II	1前	2							1	0
	解剖生理学演習	1後	1							2	0
	分子医化学	1後	2								1
	応用数学	1前	1							1	
	機械工学 I	2前	2							1	1
	機械工学 II	2後	2	2		1				1	1
	電気工学 I	1前	2							1	1
	電気工学 II	1後	2							1	1
	電子工学 I	2前	2							1	1
	電子工学 II	2後	2	2		1				1	1
	材料工学	2前	2								1
	物性工学	1後	2	2							1
	計測工学	1後	2		1						
	電気工学実習	1後	1		1		1				1
	電子工学実習	2前	1		2					1	2
	基礎工学演習 I	1前	1		1		1				
	基礎工学演習 II	3前	1		1		1				1
	基礎工学演習 III	4後	2		1		1				1
	臨床工学応用演習	4通	1				1				1
	医療総論	1前	1				1				1
	臨床工学総論	1後	1				1			1	3
	病理学	2前	2								1
	分子病態生理学	3前	1		1						1
	生体防御学	1後	1								1
	微生物学	2後	2								1
	臨床薬理概論	3前	1						1		
	医療コミュニケーション論	4前	1								1
公衆衛生学	2後	2								1	
チーム医療	4後	1						1		1	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床工学に必要となる基礎的知識の修得とシステム工学に必要となる基礎的知識の修得	情報処理Ⅰ	1前	2			1						
	情報処理Ⅱ	1後	2	2		1		1				
	システム工学	2前	2			1						
	医療情報学	1後	2			1						
	プロジェクトスキルⅠ	2後	1						1			
	プロジェクトスキルⅡ	3後	1			1			1			
小計(36科目)		-	46	10	0	4	1	3	1	0	10	
医用生体工学	医用工学概論	1後	2			1		1				
	医用機器学概論Ⅰ	1後	2					1				
	医用機器学概論Ⅱ	2後	2					1				
	医用工学演習Ⅰ	2前	1			2						
	医用工学演習Ⅱ	4後	1			2						
	医用治療機器学	2前	2				1					
	医用治療機器学演習	4後	1				1					
	医用治療機器学実習	3前	1					2				
	生体計測装置学	2前	4			1						
	生体計測装置学演習	4後	1			1		1				
	生体計測装置学実習	3前	1			1		2				
	循環器治療機器学Ⅰ	2後	1				1					
	循環器治療機器学Ⅱ	3後	2				1				1	
	消化器治療機器学	2後	1				1				1	
	臨床機器学各論Ⅰ	3後	1				1				1	
臨床機器学各論Ⅱ	3後	1				1				1		
臨床機器学各論Ⅲ	3後	1				1				1		
臨床機器学各論Ⅳ	3後	1				1				1		
臨床支援技術学基礎演習	1前	1				1	1	2	1			
臨床支援技術学	3前	2						1			5	
臨床支援技術学実習	4前	1				1					3	
医用機器学及び臨床支援技術学	生体機能代行装置学Ⅰ	2前	4				1			1		
	生体機能代行装置学Ⅱ	3後	2				1				2	
	生体機能代行装置学Ⅲ	4前	2				1				1	
	血液透析療法装置学Ⅰ	3前	2				1				1	
	血液透析療法装置学Ⅱ	4前	2				1				1	
	血液浄化療法装置学	3後	1				1				1	
	呼吸療法装置学	3後	1				1				1	
	体外循環療法装置学	3後	1							1	1	
	生体機能代行装置学演習Ⅰ	2後	1				1				1	9
	生体機能代行装置学演習Ⅱ	3通	1				1				1	7
	生体機能代行装置学実習Ⅰ	2後	1				1	1	2			6
	生体機能代行装置学実習Ⅱ	3後	2				1	1	2	1		6
	医用機器安全管理学Ⅰ	2前	2				1					
	医用機器安全管理学Ⅱ	3前	2					1				
	医用機器安全管理学実習	3後	1				1		2			
医療安全管理学	4通	2				1				1		
関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	2後	1				1					
	臨床医学総論Ⅱ	3前	1				1					
	臨床医学総論Ⅲ	3前	1				1					
	臨床医学総論Ⅳ	3後	1				1					
	臨床医学総論Ⅴ	3後	1				1					
	臨床医学演習	4通	2				2	1				
臨床実習	4前	7				1	1	2	1			
卒業研究	4通	4				5	1	3	1			
小計(49科目)		-	68	7	0	5	1	3	1	0	39	
合計(109科目)		-	85	0	10	5	1	3	1	64	65	
卒業要件及び履修方法												
必修科目124単位、基礎教育科目の選択科目から8単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、138単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限45単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床工学に必要となる基礎的知識の修得とシステム工学に必要となる基礎的知識の修得	情報処理Ⅰ	1前	2			1						
	情報処理Ⅱ	1後	2	2								1
	システム工学	2前	2									1
	医療情報学	1後	2					1				
	プロジェクトスキルⅠ	2後	1						1	1		
	プロジェクトスキルⅡ	3後	1						2	1	2	3
小計(36科目)		-	46	10	0	4	1	3	1	0	11	
医用生体工学	医用工学概論	1後	2						1	1		
	医用機器学概論Ⅰ	1後	2						1	1		
	医用機器学概論Ⅱ	2後	2					1				
	医用工学演習Ⅰ	2前	1						1	1		
	医用工学演習Ⅱ	4後	1					1				
	医用治療機器学	2前	2							1	1	
	医用治療機器学演習	4後	1							1	1	
	医用治療機器学実習	3前	1					1	1	1	3	
	生体計測装置学	2前	4								2	
	生体計測装置学演習	4後	1								2	
	生体計測装置学実習	3前	1					1	1	1	3	
	循環器治療機器学Ⅰ	2後	1					1				
	循環器治療機器学Ⅱ	3後	2					1				2
	消化器治療機器学	2後	1					1			1	
	臨床機器学各論Ⅰ	3後	1					1				1
臨床機器学各論Ⅱ	3後	1					1				1	
臨床機器学各論Ⅲ	3後	1					1				1	
臨床機器学各論Ⅳ	3後	1					1				1	
臨床支援技術学基礎演習	1前	1						1	1			
臨床支援技術学	3前	2						1			5	
臨床支援技術学実習	4前	1					1				3	
医用機器学及び臨床支援技術学	生体機能代行装置学Ⅰ	2前	4						1		2	
	生体機能代行装置学Ⅱ	3後	2					1				1
	生体機能代行装置学Ⅲ	4前	2					1		1		
	血液透析療法装置学Ⅰ	3前	2					1				1
	血液透析療法装置学Ⅱ	4前	2					1				1
	血液浄化療法装置学	3後	1					1				1
	呼吸療法装置学	3後	1					1				1
	体外循環療法装置学	3後	1							1	1	
	生体機能代行装置学演習Ⅰ	2後	1					1			1	8
	生体機能代行装置学演習Ⅱ	3通	1					1			1	8
	生体機能代行装置学実習Ⅰ	2後	1					1	1	1	3	5
	生体機能代行装置学実習Ⅱ	3後	2					1	1	1	3	6
	医用機器安全管理学Ⅰ	2前	2									1
	医用機器安全管理学Ⅱ	3前	2							1		
	医用機器安全管理学実習	3後	1					1	1	1	2	
医療安全管理学	4通	2						1	1			
関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	2後	1					1				
	臨床医学総論Ⅱ	3前	1					1		1		
	臨床医学総論Ⅲ	3前	1					1				1
	臨床医学総論Ⅳ	3後	1					1	1			
	臨床医学総論Ⅴ	3後	1					1				1
	臨床医学演習	4通	2						1	1	1	
臨床実習	4前	4						2	1	2	3	
卒業研究	4通	4						2	1	2	3	
小計(49科目)		-	68	7	0	4	1	2	1	0	38	
合計(109科目)		-	85	0	9	4	1	3	1	65	66	
卒業要件及び履修方法												
必修科目124単位、基礎教育科目の選択科目から8単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、138単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限45単位(年間))												

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
- ・「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼任」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)数」は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)数」は、認可時又は届出時の「兼任・兼任」数との比較において変更となっている箇所を**太字の赤字**としてください。
(専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・不要な年度(令和7年度開設であれば令和6年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和8年度(新)】→【令和7年度(新)】→【令和6年度】→【令和5年度】→【令和8年度(旧)】→【令和7年度(旧)】

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
70 科目	30 科目	0 科目	100 科目	82 科目 [12]	30 科目 [0]	0 科目 [0]	112 科目 [12]	(旧カリキュラム) 必修：79 [9] 選択：30 [0] 自由：0 [0] 合計：109科目 [9]

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	分子病態生理学	1	3前	専門	必修	がん発生機序を分子レベルで扱う科目であったが、臨床工学技士養成課程における教育内容との整合性を踏まえ、関連内容の一部は生化学に代替可能であるため廃止した。但し、旧カリキュラムにおいては廃止としない。
2	医療英語	1	2後	一般	必修	英語IIIを必修としたため。但し、旧カリキュラムにおいては廃止としない。
3	医用機器学概論Ⅰ	2	1後	専門	必修	旧カリキュラムにおいては廃止としない。
4	医用機器学概論Ⅱ	2	2後	専門	必修	旧カリキュラムにおいては廃止としない。

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

学生にはガイダンス等で報告している。

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{4}{100} = \boxed{4}\%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	75,039.36 m ²	0 m ²	0 m ²	75,039.36 m ²			
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	75,039.36 m ²			
	合 計	75,039.36 m ²	0 m ²	0 m ²	75,039.36 m ²			
(2) 校 舎	専 用	40,053.54 m ²	0 m ²	0 m ²	40,053.54 m ²			
	(45,053.54m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(40,053.54 m ²)				
(3)教室・教員研究室		教 室	147室	教員研究室	9 42室	教員数に基づき変更(6)		
(4) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書		学術雑誌		機械・器具	標本	
		〔うち外国書〕	電子図書	〔うち外国書〕	電子ジャーナル			
	冊	〔うち外国書〕	種	〔うち外国書〕	点	点		
	臨床工学科	495 [70] (771 [79])	— [—] (— [—])	11 [11] (3 [3])	11 [11] (3 [3])	— (—)	— (—)	
計	1,075 [0] (1,075 [0])	168 [0] (168 [0])	13 [0] (13 [0])	— [—] (— [—])	— (—)	— (—)		
(5) スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂		厚生補導施設			
	930.0 m ²		0 m ²		1,221.61 m ²			
(6) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	10,697千円	2,400千円	2,400千円
		共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	87,000千円	0千円	0千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	1,900千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		寄附金、私立大学等経常費補助金 等						

- (注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)又は(その1の3)に準じて作成してください。
(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(8)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・高等専門学校については「(3)教室・教員研究室」欄の「教員研究室」は記載不要です。
 - ・国立大学については「(6)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	日本医療大学					収容定員充足率0.7倍以下の学科数	4	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0		
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
保健医療学部	年	人	年次人	人	-	0.83	-	-	平成26	札幌市豊平区月寒東3-11-1-50	
看護学科	4	150	0	600	学士(看護学)	0.96	-	-	平成26	同上	
リハビリテーション学科	4	140	0	560	-	0.73	-	令和5	平成27	同上	
理学療法学専攻	4	100	0	400	学士(理学療法学)	0.80	-	令和5	平成27	同上	
作業療法学専攻	4	40	0	160	学士(作業療法学)	0.55	-	令和5	平成27	同上	
診療放射線学科	4	100	0	400	学士(診療放射線学)	0.95	-	-	平成28	同上	
臨床検査学科	4	60	0	240	学士(臨床検査学)	0.96	-	-	令和3	同上	令和9年度から入学定員変更(60→80)
臨床工学科	4	60	0	240	学士(臨床工学)	0.37	-	-	令和4	同上	令和9年度から入学定員変更(60→20)
総合福祉学部	4	100	3年次100	600	-	0.63	-	-	令和4	同上	
介護福祉マネジメント学科	4	-	-	-	学士(福祉経営学)	-	-	-	令和4	同上	令和8年度入学生より学生募集停止
ソーシャルワーク学科	4	-	-	-	学士(社会福祉学)	-	-	-	令和4	同上	令和8年度入学生より学生募集停止
通信教育部ソーシャルワーク学科	4	100	3年次100	600	学士(社会福祉学)	0.63	-	-	令和5	同上	
ヒューマンデザイン学部	4	120	0	120	-	0.23	-	-	令和8	同上	
医療DXマネジメント学科	4	40	0	40	学士(福祉経営学)	0.22	-	-	令和8	同上	
共生社会デザイン学科	4	80	0	80	学士(社会福祉学)	0.23	-	-	令和8	同上	
大学全体	4	730	3年次100	2760	-	0.76	-	-	-	-	

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。

- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとに、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。

- ・履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

- ・本年度A.Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

- ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。

開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。

算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和9年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

- ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」

第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。

なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

- ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。

- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

- ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。

詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	島本 和明 (74) <令和4年4月> 博士(医学)	医療総論	兼任	教授	島本 和明 (76) <令和4年4月> 博士(医学)	医療総論	兼任	教授	島本 和明 (79) <令和4年4月> 博士(医学)	医療総論	基 (主幹)	教授	島本 和明 (79) <令和4年4月> 博士(医学)	医療総論
兼任	教授	宮本 篤 (66) <令和6年4月> 博士(薬理学)	臨床薬理概論	兼任	教授	宮本 篤 (68) <令和6年4月> 博士(薬理学)	臨床薬理概論	兼任	教授	宮本 篤 (70) <令和6年4月> 博士(薬理学)	臨床薬理概論	基 (専任)	教授	宮本 篤 (71) <令和6年4月> 薬学博士	臨床薬理概論 テーマ医療概論
兼任	教授	林 美枝子 (64) <令和4年4月> 博士(医学)	文化人類学 医療と社会 北海道史	兼任	教授	林 美枝子 (66) <令和4年4月> 博士(医学)	文化人類学 医療と社会 北海道史	兼任	教授	林 美枝子 (67) <令和4年4月> 博士(医学)	文化人類学 医療と社会 北海道史	その他	教授	林 美枝子 (68) <令和4年4月> 博士(医学)	文化人類学 医療と社会 北海道史
兼任	教授	松本 真由美 (61) <令和4年4月> 博士(心理学)	心理学 人間関係の科学 ポランディア論	兼任	教授	松本 真由美 (63) <令和4年4月> 博士(心理学)	心理学 人間関係の科学 ポランディア論	兼任	教授	松本 真由美 (64) <令和4年4月> 博士(心理学)	心理学 人間関係の科学 ポランディア論	その他	教授	松本 真由美 (66) <令和4年4月> 博士(心理学)	心理学 人間関係の科学 ポランディア論
兼任	教授	森口 真衣 (47) <令和4年4月> 博士(文学)	倫理学 生命倫理 医療と哲学	兼任	教授	森口 真衣 (49) <令和4年4月> 博士(文学)	倫理学 生命倫理 医療と哲学	兼任	教授	森口 真衣 (50) <令和4年4月> 博士(文学)	倫理学 生命倫理 医療と哲学	その他	教授	森口 真衣 (52) <令和4年4月> 博士(文学)	倫理学 生命倫理 医療と哲学
兼任	講師	志達 晃一 (66) <令和4年4月> 博士(医学)	公衆衛生学	兼任	教授	志達 晃一 (68) <令和4年4月> 博士(医学)	公衆衛生学	兼任	教授	志達 晃一 (69) <令和4年4月> 博士(医学)	公衆衛生学	その他	講師	志達 晃一 (70) <令和4年4月> 博士(医学)	公衆衛生学
兼任	講師	鉄本 隆行 (52) <令和4年4月> 修士(社会福祉学)	医療総論	兼任	講師	鉄本 隆行 (54) <令和4年4月> 修士(社会福祉学)	医療総論	兼任	講師	鉄本 隆行 (55) <令和4年4月> 修士(社会福祉学)	医療総論	その他	講師	鉄本 隆行 (56) <令和4年4月> 修士(社会福祉学)	医療総論
兼任	講師	合田 嘉理香 (45) <令和5年4月> 修士(看護学)	臨床支援技術学実習	兼任	講師	合田 嘉理香 (46) <令和5年4月> 修士(看護学)	臨床支援技術学実習	兼任	准教授	合田 嘉理香 (47) <令和5年4月> 修士(看護学)	臨床支援技術学実習	その他	講師	合田 嘉理香 (48) <令和5年4月> 修士(看護学)	臨床支援技術学実習
兼任	教授	西山 修輔 (52) <令和6年4月> 博士(工学)	電子工学Ⅱ	兼任	教授	西山 修輔 (53) <令和6年4月> 博士(工学)	電子工学Ⅱ	兼任	教授	西山 修輔 (54) <令和6年4月> 博士(工学)	電子工学Ⅱ	その他	教授	西山 修輔 (55) <令和6年4月> 博士(工学)	電子工学Ⅱ
兼任	講師	木村 主幸 (68) <令和4年4月> 博士(医学)	病理学 生体防御学 微生物学	兼任	講師	木村 主幸 (70) <令和4年4月> 博士(医学)	病理学 生体防御学 微生物学	兼任	講師	木村 主幸 (71) <令和4年4月> 博士(医学)	病理学 生体防御学 微生物学	その他	講師	木村 主幸 (72) <令和4年4月> 博士(医学)	病理学 生体防御学 微生物学
兼任	講師	神谷 奈保子 (66) <令和4年4月> 博士	教育学 コミュニケーション学	兼任	講師	神谷 奈保子 (68) <令和4年4月> 博士	教育学 コミュニケーション学	兼任	講師	神谷 奈保子 (69) <令和4年4月> 博士	教育学 コミュニケーション学	その他	講師	神谷 奈保子 (70) <令和4年4月> 博士	教育学 コミュニケーション学
兼任	講師	志保 裕行 (62) <令和4年4月> 専門士	化学	兼任	講師	志保 裕行 (64) <令和4年4月> 専門士	化学	兼任	講師	志保 裕行 (65) <令和4年4月> 専門士	化学	その他	講師	志保 裕行 (67) <令和4年4月> 専門士	化学
兼任	講師	三瀬 敬治 (61) <令和4年4月> 博士(医学)	生命科学 生物学 数学	兼任	講師	三瀬 敬治 (63) <令和4年4月> 博士(医学)	生命科学 生物学 数学	兼任	講師	三瀬 敬治 (64) <令和4年4月> 博士(医学)	生命科学 生物学 数学	その他	講師	三瀬 敬治 (65) <令和4年4月> 博士(医学)	生命科学 生物学 数学
兼任	講師	旗手 俊彦 (60) <令和4年4月> 学術博士(法学)	法学	兼任	講師	旗手 俊彦 (62) <令和4年4月> 学術博士(法学)	法学	兼任	講師	旗手 俊彦 (63) <令和4年4月> 学術博士(法学)	法学	その他	講師	旗手 俊彦 (64) <令和4年4月> 学術博士(法学)	法学
兼任	講師	吉岡 政美 (58) <令和5年4月> 学士	生体機能代行装置学実習Ⅰ	兼任	講師	吉岡 政美 (60) <令和5年4月> 学士	生体機能代行装置学実習Ⅰ	兼任	講師	吉岡 政美 (61) <令和5年4月> 学士	生体機能代行装置学実習Ⅰ	その他	講師	吉岡 政美 (62) <令和5年4月> 学士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	西村 生哉 (58) <令和4年4月> 博士(工学)	材料工学 物性工学	兼任	講師	西村 生哉 (60) <令和4年4月> 博士(工学)	材料工学 物性工学	兼任	講師	西村 生哉 (61) <令和4年4月> 博士(工学)	材料工学 物性工学	その他	講師	西村 生哉 (63) <令和4年4月> 博士(工学)	材料工学Ⅰ 材料工学Ⅱ 物性工学Ⅰ 物性工学Ⅱ

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	成田 孝行 (52) <令和6年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅲ	兼任	講師	成田 孝行 (54) <令和6年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅲ	兼任	講師	成田 孝行 (55) <令和6年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅲ	その他	講師	成田 孝行 (57) <令和6年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅲ
兼任	講師	寺島 斉 (52) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	寺島 斉 (54) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	寺島 斉 (55) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	その他	講師	寺島 斉 (57) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ
兼任	講師	宗万 孝次 (52) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	宗万 孝次 (54) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	宗万 孝次 (55) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	その他	講師	宗万 孝次 (57) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ
兼任	講師	平田 和也 (49) <令和6年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅰ	兼任	講師	平田 和也 (51) <令和6年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅰ	兼任	講師	平田 和也 (52) <令和6年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅰ	その他	講師	平田 和也 (54) <令和6年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅰ
兼任	講師	木村 吉治 (48) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	木村 吉治 (50) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	木村 吉治 (51) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	その他	講師	木村 吉治 (54) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ
兼任	講師	大宮 裕樹 (48) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	大宮 裕樹 (50) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	大宮 裕樹 (51) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	その他	講師	大宮 裕樹 (53) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ
兼任	講師	布施 崇宏 (49) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ	兼任	講師	布施 崇宏 (51) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ	兼任	講師	布施 崇宏 (52) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ	その他	講師	布施 崇宏 (54) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	奥田 正穂 (45) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	奥田 正穂 (47) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	奥田 正穂 (48) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ	その他	講師	奥田 正穂 (50) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅱ
兼任	講師	韓 然善 (44) <令和5年4月> 修士(文学)	韓国語	兼任	講師	韓 然善 (46) <令和5年4月> 修士(文学)	韓国語	兼任	講師	韓 然善 (47) <令和5年4月> 修士(文学)	韓国語	その他	講師	韓 然善 (49) <令和5年4月> 修士(文学)	韓国語
兼任	講師	高塚 伸太郎 (42) <令和4年4月> 修士(工学)	物理学(基礎) 物理学(応用)	兼任	講師	高塚 伸太郎 (44) <令和4年4月> 修士(工学)	物理学(基礎) 物理学(応用)	兼任	講師	高塚 伸太郎 (45) <令和4年4月> 修士(工学)	物理学(基礎) 物理学(応用)	その他	講師	橋本 雄大 (46) <令和4年4月> 修士(工学)	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ
兼任	講師	扇谷 稔 (42) <令和5年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅳ 生体機能代行装置学実習Ⅰ	兼任	講師	扇谷 稔 (44) <令和5年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅳ 生体機能代行装置学実習Ⅰ	兼任	講師	扇谷 稔 (45) <令和5年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅳ 生体機能代行装置学実習Ⅰ	その他	講師	扇谷 稔 (47) <令和5年4月> 専門士	臨床機器学各論Ⅳ 生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	金谷 樹 (42) <令和6年4月> 専門士	血液浄化療法装置学 生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	金谷 樹 (44) <令和6年4月> 専門士	血液浄化療法装置学 血液透析療法装置学Ⅰ 血液透析療法装置学Ⅱ 生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	金谷 樹 (45) <令和6年4月> 専門士	血液浄化療法装置学 血液透析療法装置学Ⅰ 血液透析療法装置学Ⅱ 生体機能代行装置学実習Ⅱ	その他	講師	金谷 樹 (47) <令和6年4月> 専門士	血液浄化療法装置学 血液透析療法装置学Ⅰ 血液透析療法装置学Ⅱ 生体機能代行装置学実習Ⅱ
兼任	講師	原田 祐輔 (40) <令和5年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ	兼任	講師	原田 祐輔 (42) <令和5年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ 生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	原田 祐輔 (43) <令和5年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ 生体機能代行装置学実習Ⅱ	その他	講師	原田 祐輔 (45) <令和5年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ 生体機能代行装置学実習Ⅱ
兼任	講師	赤間 荘太 (37) <令和4年4月> 修士	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ	兼任	講師	赤間 荘太 (39) <令和4年4月> 修士	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ	兼任	講師	赤間 荘太 (40) <令和4年4月> 修士	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 医療英語	その他	講師	赤間 荘太 (42) <令和4年4月> 修士	医療英語
兼任	講師	寺島 寿江 (35) <令和5年4月> 学士	消化器治療機器学	兼任	講師	寺島 寿江 (37) <令和5年4月> 学士	消化器治療機器学	兼任	講師	寺島 寿江 (38) <令和5年4月> 学士	消化器治療機器学 血液透析療法装置学Ⅰ	その他	講師	寺島 寿江 (40) <令和5年4月> 学士	消化器治療機器学
兼任	講師	本間 将平 (34) <令和5年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ	兼任	講師	本間 将平 (36) <令和5年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ 生体機能代行装置学実習Ⅱ	兼任	講師	本間 将平 (37) <令和5年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ 生体機能代行装置学実習Ⅱ	その他	講師	本間 将平 (39) <令和5年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ 生体機能代行装置学実習Ⅱ
兼任	講師	吉田 晃大 (30) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学Ⅱ 生体機能代行装置学Ⅲ	兼任	講師	吉田 晃大 (32) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学Ⅱ 生体機能代行装置学Ⅲ 臨床工学総論	兼任	講師	吉田 晃大 (33) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学Ⅱ 生体機能代行装置学Ⅲ 臨床工学総論	その他	講師	吉田 晃大 (35) <令和6年4月> 専門士	生体機能代行装置学Ⅱ 生体機能代行装置学Ⅲ 臨床工学総論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	井上 和佳奈 (25) <令和4年4月> 修士(体育学)	生活と運動 健康とスポーツ
兼任	講師	井上 和佳奈 (27) <令和4年4月> 修士(体育学)	生活と運動 健康とスポーツ
兼任	講師	長崎 みさと (31) <令和5年4月>	医療英語
兼任	講師	安積 順一 (76) <令和5年4月> 博士(理学)	生命科学 生物学
兼任	講師	大川 良輔 (47) <令和5年4月> 修士(文学)	日本語表現
兼任	講師	岡村 英明 (51) <令和8年4月> 修士(看護学)	医療コミュニケーション論
兼任	講師	真下 康 (61) <令和5年4月> 修士(工学)	臨床工学論
兼任	講師	斎藤 喜博 (50) <令和5年4月> 専門士	臨床工学論
兼任	講師	田中 智貴 (29) <令和7年4月> 専門士	看護療法看護学Ⅱ 臨床支援技術学
兼任	講師	斎藤 大貴 (45) <令和7年4月> 専門士	臨床工学論Ⅱ
兼任	講師	後藤 卓 (51) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学 臨床支援技術学実習
兼任	講師	城宝 貴志 (51) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学
兼任	講師	玉野 光 (51) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学
兼任	講師	増田 福介 (48) <令和7年4月> 修士(看護学)	臨床支援技術学
兼任	講師	小谷 祐介 (42) <令和8年4月> 専門士	臨床支援技術学実習
兼任	講師	陶山 真一 (51) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	齋藤 公貴 (53) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	法島 まなみ (40) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	佐藤 大樹 (34) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	田中 佑樹 (32) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	井上 和佳奈 (28) <令和4年4月> 修士(体育学)	生活と運動 健康とスポーツ
兼任	講師	安積 順一 (77) <令和5年4月> 博士(理学)	生命科学 生物学
兼任	講師	大川 良輔 (48) <令和5年4月> 修士(文学)	日本語表現
兼任	講師	岡村 英明 (52) <令和8年4月> 修士(看護学)	医療コミュニケーション論
兼任	講師	真下 康 (62) <令和5年4月> 修士(工学)	臨床工学論
兼任	講師	斎藤 喜博 (51) <令和5年4月> 専門士	臨床工学論
兼任	講師	田中 智貴 (30) <令和7年4月> 専門士	看護療法看護学Ⅱ 臨床支援技術学
兼任	講師	後藤 卓 (52) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学 臨床支援技術学実習
兼任	講師	城宝 貴志 (52) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学
兼任	講師	玉野 光 (52) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学
兼任	講師	増田 福介 (49) <令和7年4月> 修士(看護学)	臨床支援技術学
兼任	講師	小谷 祐介 (43) <令和8年4月> 専門士	臨床支援技術学実習
兼任	講師	齋藤 公貴 (54) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	法島 まなみ (41) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	佐藤 大樹 (35) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	田中 佑樹 (32) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	井上 和佳奈 (29) <令和4年4月> 修士(体育学)	生活と運動 健康とスポーツ
兼任	講師	安積 順一 (78) <令和5年4月> 博士(理学)	生命科学 生物学
兼任	講師	大川 良輔 (49) <令和5年4月> 修士(文学)	日本語表現
兼任	講師	岡村 英明 (53) <令和8年4月> 修士(看護学)	医療コミュニケーション論
兼任	講師	真下 康 (64) <令和5年4月> 修士(工学)	臨床工学論
兼任	講師	斎藤 喜博 (52) <令和5年4月> 専門士	臨床工学論
兼任	講師	田中 智貴 (30) <令和7年4月> 専門士	看護療法看護学Ⅱ 臨床支援技術学
兼任	講師	後藤 卓 (53) <令和7年4月> 専門士	臨床工学論Ⅱ
兼任	講師	城宝 貴志 (53) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学 臨床支援技術学実習
兼任	講師	玉野 光 (53) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学
兼任	講師	増田 福介 (50) <令和7年4月> 修士(看護学)	臨床支援技術学
兼任	講師	小谷 祐介 (44) <令和8年4月> 専門士	臨床支援技術学実習
兼任	講師	齋藤 公貴 (55) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	法島 まなみ (42) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	佐藤 大樹 (36) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
兼任	講師	田中 佑樹 (33) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
その他	講師	井上 和佳奈 (30) <令和8年4月> 修士(体育学)	生活と運動 健康とスポーツ
その他	講師	高住 拓 (53) <令和8年4月> 博士(医学)	生物学 生化学 分子生物学
その他	講師	大川 良輔 (50) <令和8年4月> 修士(文学)	日本語表現
その他	講師	岡村 英明 (54) <令和8年4月> 修士(看護学)	医療コミュニケーション論
その他	講師	真下 康 (64) <令和8年4月> 修士(工学)	臨床工学論
その他	講師	斎藤 喜博 (53) <令和8年4月> 専門士	臨床工学論
その他	講師	古谷 敦人 (53) <令和8年4月> 専門士	看護療法看護学Ⅱ 臨床支援技術学
その他	講師	小林 恵希子 (54) <令和8年4月> 専門士	臨床工学論Ⅱ
その他	講師	後藤 卓 (54) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学 臨床支援技術学実習
その他	講師	城宝 貴志 (54) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学
その他	講師	玉野 光 (54) <令和7年4月> 専門士	臨床支援技術学
その他	講師	増田 福介 (51) <令和8年4月> 修士(看護学)	臨床支援技術学
その他	講師	小谷 祐介 (45) <令和8年4月> 専門士	臨床支援技術学実習
その他	講師	法島 まなみ (43) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
その他	講師	佐藤 大樹 (36) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ
その他	講師	田中 佑樹 (34) <令和8年4月> 専門士	生体機能代行装置学実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			
												その他	教授	岸上 博俊 (55) <令和3年4月> 博士(社会福祉学)
														スタートアップ講座
												その他	教授	原田 邦明 (57) <令和3年4月> 博士(医学)
														スタートアップ講座
												その他	教授	河原崎 伸英 (59) <令和3年4月> 修士(看護学)
														スタートアップ講座
												その他	教授	向井 康明 (63) <令和3年4月> 修士(理学療法)
														スタートアップ講座
												その他	助教	磯辺 正道 (61) <令和3年4月> 専門士
														スタートアップ講座
												その他	教授	進藤 ゆかり (6) <令和3年4月> 博士(医学)
														スタートアップ講座
												その他	准教授	鶴木 恭子 (61) <令和3年4月> 修士(教育学)
														スタートアップ講座
												その他	講師	新開谷 深 (50) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)
														スタートアップ講座
												その他	准教授	岡田 一範 (60) <令和3年4月> 博士(保健科学)
														スタートアップ講座
												その他	講師	山北 紗静 (32) <令和3年4月> 修士(看護学)
														医療コミュニケーション論
												その他	講師	小嶋 睦明 (46) <令和3年4月> 専門士
														生体機能代行装置学演習Ⅰ

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各種の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を赤字で記入してください。

その上で、各年度については、**異動時又は異動前からの変更となっている箇所は赤字としてください。**

- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の歳年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、英専、英(研)、英(研)、兼担、兼任の順に記入してください。
- ・ 不変の年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は塗黑してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ①-2担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により中村孝夫教授が「基礎工学演習Ⅰ」「基礎工学演習Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により竹内文也教授が「基礎工学演習Ⅲ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により千原伸也教授が「臨床支援技術学実習Ⅰ」「臨床支援技術学基礎演習Ⅰ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により工藤元嗣准教授が「臨床支援技術学基礎演習Ⅱ」「臨床支援技術学実習Ⅱ」「生体機能代行装置学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により齊藤高志講師が「臨床支援技術学実習Ⅲ」「臨床支援技術学基礎演習Ⅲ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により齊藤高志講師が「臨床支援技術学実習Ⅲ」「臨床支援技術学基礎演習Ⅲ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
附属専攻の1年度課程に定める進路転換を定める専任教員の割合が高いと指摘を受け、令和5年度加川訓講師が「機械工学Ⅰ」「電気工学Ⅰ」「電気工学Ⅱ」「電子工学Ⅰ」「電子工学Ⅱ」「臨床工学応用演習Ⅰ」「医用工学概論Ⅰ」「卒業研究」を担当、臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により「基礎工学演習Ⅰ」「基礎工学演習Ⅱ」を担当。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により高平昂助教が「臨床支援技術学実習Ⅰ」「生体機能代行装置学Ⅰ」を担当し、より専門性の高い「臨床工学総論」「体外循環療法装置学」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により扇谷裕講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
専門性の高い「臨床工学総論」の一部をオムニバスにて真下謙講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
より専門性の高い「生体機能代行装置学実習Ⅰ」の一部をオムニバスにて本間将平講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
専門性の高い「臨床工学総論」の一部をオムニバスにて吉田典大講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により金谷樹講師(兼任)が「臨床支援技術学実習Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により「医療コミュニケーション論」を岡村英明講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
専門性の高い「臨床工学総論」の一部をオムニバスにて真下謙講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
より専門性の高い「生体機能代行装置学実習Ⅱ」の一部をオムニバスにて本間将平講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
専門性の高い「臨床工学総論」の一部をオムニバスにて斎藤大貴講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により田中智貴講師(兼任)が「臨床支援技術学」を担当し、より専門性の高い「循環器治療機器学Ⅱ」の一部をオムニバスにて担当(令和4年12月教員審査済み)。
専門性の高い「臨床工学総論」の一部をオムニバスにて齋藤大貴講師(兼任)が担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により後藤卓講師(兼任)が「臨床支援技術学実習Ⅲ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により堀室志講師(兼任)が「臨床支援技術学実習Ⅳ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により玉澤亮講師(兼任)が「臨床支援技術学実習Ⅴ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により増田隆介講師(兼任)が「臨床支援技術学実習Ⅵ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により小谷祐介講師(兼任)が「臨床支援技術学実習Ⅶ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により陶山山一講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅱ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により藤原誠一講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅲ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により法基まなみ講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅳ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により佐藤大樹講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅴ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により田中佑樹講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅵ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により村田裕吉講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅶ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により原田智昭講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅷ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により藤田克己講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅸ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により加藤敏史講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅹ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により菅原誠一講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅺ」を担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により前田剛武講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅻ」を担当し、より専門性の高い「体外循環療法装置学」の一部をオムニバスにて担当(令和4年12月教員審査済み)。
臨床工学士学校養成所指定規則の改定に対応した新カリキュラム導入により前田剛武講師(兼任)が「生体機能代行装置学Ⅻ」を担当し、より専門性の高い「体外循環療法装置学」の一部をオムニバスにて担当(令和4年12月教員審査済み)。
中村孝夫教授(専任)の退職により、「卒業実習」は他の共同担当の専任教員で分担
中村孝夫教授(専任)の退職により、「卒業研究」は他の共同担当の専任教員で分担

【令和6年度】

・中村孝夫教授の退職により、「システム工学」の担当を猿島祐講師(兼任)に変更。
・高平昂助教の退職により、「体外循環療法装置学Ⅰ」の担当を真下謙講師(兼任)に変更。
・高平昂助教の退職により、「プロジェクトスキルⅠ」の担当を兼任講師に変更予定。
・令和6年4月岡山理数助教授着任(令和5年11月AC教員審査済み)
・「教育学」について、井上渥人講師(兼任)に変更。
・「生体機能代行装置学Ⅱ」について、大町和講師(兼任)、陶山山一講師(兼任)の辞退により、宮西智和講師(兼任)、貝沼宏樹講師(兼任)に変更。
・高平昂助教(専任)の退職、陶山雅哉助教授の着任により、「臨床実習Ⅰ」の担当を入れ替え。
・高平昂助教(専任)の退職、陶山雅哉助教授の着任により、「卒業研究」の担当を入れ替え。
・「血液透析療法装置学Ⅰ」について金谷樹講師(兼任)の体調不良により、令和6年度のみ寺島寿恵講師(兼任)に変更。
・「血液浄化療法装置学Ⅱ」について金谷樹講師(兼任)の体調不良により、令和6年度のみ科目責任者の千原伸也教授に変更。
・「プロジェクトスキルⅠ」の担当を高平昂講師(兼任)に変更。
・「医療英語Ⅰ」について斎藤高志講師(兼任)の辞退により、斎藤大貴講師(兼任)に変更。
・「生体機能代行装置学実習Ⅱ」について金谷樹講師(兼任)の辞退により、小塚麻紀講師(兼任)に変更。
・「体外循環療法装置学Ⅰ」の担当を伊藤好弥講師(兼任)に変更。
・「臨床機器学各論Ⅱ」について齋藤大貴講師(兼任)の辞退により、科目責任者の齊藤高志講師に変更。
・「生体機能代行装置学Ⅱ」について菅原誠一講師(兼任)の体調不良により、令和6年度のみ科目責任者の工藤元嗣准教授に変更。
・高平昂助教の退職により、「プロジェクトスキルⅡ」の科目責任者を共同担当の工藤元嗣准教授に変更。
・高平昂助教の退職により、「体外循環療法装置学Ⅱ」の担当を高平昂講師(兼任)に変更。

【令和7年度】

・「血液透析療法装置学Ⅰ」について(認可時又は届出時)の金谷樹講師(兼任)がオムニバスで担当。
・「血液浄化療法装置学Ⅱ」について(認可時又は届出時)の金谷樹講師(兼任)がオムニバスで担当。
・「卒業研究」について科目責任者を学科長の千原伸也教授に変更。
・「臨床工学総論Ⅴ」について田中智貴講師(兼任)の辞退により、菅原誠一講師(兼任)に変更。
・「循環器治療機器学Ⅱ」について田中智貴講師(兼任)の辞退により、兼任講師に変更予定。
・「臨床支援技術学Ⅰ」について田中智貴講師(兼任)の辞退により、兼任講師に変更予定。
・「生体機能代行装置学Ⅱ」について、(認可時又は届出時)の齋藤高志講師(兼任)がオムニバスで担当

【令和8年度】

・カリキュラム変更により、竹内文也教授が「基礎工学総合Ⅰ」「基礎工学総合Ⅱ」「基礎工学実習Ⅰ」「基礎工学実習Ⅱ」「基礎工学実習Ⅲ」「情報処理Ⅰ」「医療情報学Ⅰ」「医用工学概論ⅡⅢ」「生体機能代行技術応用実習Ⅰ」「臨床実習Ⅰ」を担当(令和3年12月教員審査済み)。
・カリキュラム変更により、千原伸也教授が「生体計測技術学実習Ⅰ」「生体機能代行技術応用実習Ⅱ」「臨床医学総論Ⅰ」を担当(令和3年12月教員審査済み)。
・カリキュラム変更により、斎藤高志講師が「医療倫理情報学Ⅰ」「生体計測技術学実習Ⅱ」「生体機能代行技術応用実習Ⅲ」「臨床医学総論ⅡⅢ」を担当(令和3年12月教員審査済み)。
・カリキュラム変更により、高平昂助教が「解剖生理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」「解剖生理学Ⅲ」「医用治療機器学Ⅰ」「医用治療機器学Ⅱ」「生体計測技術学実習Ⅳ」「生体機能代行装置学ⅠⅡ」「体外循環療法装置学Ⅰ」「生体機能代行装置学実習ⅠⅡ」を担当(令和5年11月教員審査済み)。
・カリキュラム変更により、陶山山一講師が「解剖生理学Ⅳ」「解剖生理学Ⅴ」「解剖生理学Ⅵ」「医用治療機器学Ⅲ」「臨床医学総論Ⅳ」「臨床実習Ⅱ」「卒業研究Ⅱ」を担当(令和5年5月教員審査済み)。
・カリキュラム変更により、大井諒助教授が「電子工学Ⅰ」「基礎工学総合Ⅲ」「基礎工学実習Ⅳ」「基礎工学実習Ⅴ」「基礎工学実習Ⅵ」「医用工学概論ⅢⅣ」「医用工学概論ⅤⅥ」「生体計測技術学Ⅳ」「生体計測技術学Ⅴ」「生体計測技術学Ⅵ」「生体計測技術学Ⅶ」「生体機能代行技術応用実習Ⅳ」「臨床実習Ⅲ」「卒業研究Ⅲ」を担当(令和5年5月教員審査済み)。
・カリキュラム変更により、宮本篤教授、小野孝子教授が「チーム医療学」を担当。
・カリキュラム変更により、小野孝子教授が「スタートアップ講座」を担当。
・カリキュラム変更により、上杉正人教授が「情報科学」を担当。
・カリキュラム変更により、香川真太郎教授が「医療と教育」を担当。
・カリキュラム変更により、西村生哉講師(その他)が「材料工学Ⅰ」「材料工学Ⅱ」「物性工学Ⅰ」「物性工学Ⅱ」を担当。
・カリキュラム変更により、小林希子講師(その他)が「臨床機器学各論Ⅱ」を担当。
・カリキュラム変更により、唐 待講師(その他)が「中国語」を担当。
・カリキュラム変更により、菅 待講師(その他)が「生化学」を担当。
・カリキュラム変更により、菅 待講師(その他)が「生化学」を担当。
・カリキュラム変更により、上原信介講師(その他)が「臨床支援技術学」を担当。
・高橋誠教授の退職により、「卒業研究」を大井諒助教授に変更。
・高橋誠教授の退職により、「医療情報学」を竹内文也教授に変更。
・高橋誠教授の退職により、「臨床医学総論Ⅰ」「臨床医学総論Ⅱ」「臨床医学総論Ⅲ」「臨床医学総論Ⅳ」「臨床医学総論Ⅴ」の担当を高本明教授、三高広俊教授、千原伸也教授、斎藤高志講師、高平昂助教に変更。
・高橋誠教授の退職により、「解剖生理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」「解剖生理学Ⅲ」の担当を高本明教授、三高広俊教授、千原伸也教授、斎藤高志講師、高平昂助教に変更。
・工藤元嗣准教授の退職により、「医用治療機器学Ⅰ」「医用治療機器学Ⅱ」「生体機能代行装置学Ⅰ」「体外循環療法装置学Ⅰ」「生体機能代行装置学実習ⅠⅡ」「医療安全管理学Ⅰ」「医用機器安全管理学実習Ⅰ」「臨床医学演習Ⅰ」「臨床実習Ⅳ」「卒業研究Ⅳ」を斎藤高志教授、齋藤高志講師、陶山雅哉助教授、高平昂助教に変更。
・赤間祐太講師(その他)の辞退により、「英語」「英語Ⅱ」の担当を佐藤大樹講師に変更。
・高塚伸太講師(その他)の辞退により、「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」の担当を橋本雄大講師(その他)に変更。

(注) 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 認可で設置された学部等の基幹(専任)教員を変更する場合は、当該基幹(専任)教員が授業を開始する前に必ず「基幹(専任)教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A C教員審査)を受けてください。
原則としてA C教員審査を受けずに基幹(専任)教員として授業等を担当することは出来ません。
なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。(改正後大学設置基準等の適用にあり、)
「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A C教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、A C教員審査を受審する必要があります。
A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「○年○月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度(令和7年度開設であれば令和6年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 基幹教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)の設置」の場合、大学設置基準第四十一条第二項(短期大学設置基準第三条の二)に基づき「連係協力学部等(連係協力学科)の基幹教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要基幹教員数」及び「(2)-② 基幹教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要基幹教員数

完成年度時における設置基準上の必要基幹教員数(α)	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	うち、完成年度時における設置基準上の専ら当該学部等の教育研究に専事する必要基幹教員数(α)の4分の3以上)
8	4	6
名	名	名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一、高等専門学校設置基準第六条第九項により算出される基幹教員数を記入してください。
 ・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 基幹教員等数【大学・高専】

設置時の計画							現在(報告時)の状況						
教授	准教授	講師	助教	計(A)	うち専ら当該学部等の教育研究に専事する者(「基(主専)」及び「基(専)」の計(A'))	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	うち専ら当該学部等の教育研究に専事する者(「基(主専)」及び「基(専)」の計(B'))	助手(B')
5	2	2	0	9	9	0	4	1	2	3	10	9	0
(5)	(2)	(2)	(0)	(9)	(9)	(0)							
現在(報告時)の完成年度時の状況							現在(報告時)の完成年度時の計画						
教授	准教授	講師	助教	計(C)	うち専ら当該学部等の教育研究に専事する者(「基(主専)」及び「基(専)」の計(C'))	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	うち専ら当該学部等の教育研究に専事する者(「基(主専)」及び「基(専)」の計(D'))	助手(D')
4	1	2	3	10	9	0	4	1	2	3	10	9	0
[△1]	[△1]	[0]	[3]	[1]	[0]	[0]	[△1]	[△1]	[0]	[3]	[1]	[0]	[0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 高等専門学校の場合、「うち専ら当該学部等の教育研究に専事する者(「基(主専)」及び「基(専)」の計)」欄は、「うち専ら当該高等専門学校の教育に専事する者(「基一」及び「基専」の計)」として記入してください。
 なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「設置時の計画」欄は「設置時の計画(改正前大学設置基準等)」とした上で、「専任教員」及び「助手」の人数を記入してください。
 また、「計(A)」の「うち専ら当該学部等の教育研究に専事する者(「基(主専)」及び「基(専)」の計)」(A')欄には「-」を記入してください。
 ・「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて基幹教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて基幹教員として採用する教員数を記入してください。
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二桁書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

【基幹教員全体】
 現在(報告時)の完成年度時の状況(C) = $\frac{10}{9} = 111.11$ %
 設置時の計画(A)

【基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に専事する者】
 現在(報告時)の完成年度時の状況(C') = $\frac{9}{9} = 100$ %
 設置時の計画(A')

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数 = $\frac{2}{10} = 20$ %
 現在(報告時)の状況(B)

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

現在(報告時)の完成年度時の状況(C') = $\frac{0}{0} = -$ %
 設置時の計画(A')

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- (注)・一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹（専任）教員**について、記入してください。
 (学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」 |
| ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」 |
| ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
4 人	必修	57 科目	必修	53 科目	必修	4 科目	必修	0 科目
	選択	3 科目	選択	3 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	60 科目	計	56 科目	計	4 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{4}{9} = 44.44 \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和7年度報告書から、新たに辞任等した基幹（専任）教員等の状況

1 人

(注)・(3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した基幹（専任）教員数の合計数を記載してください。

・令和8年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1	教授	高橋 誠	必修 必修 選択 必修 選択 必修 必修 必修	医療英語 応用数学 機械工学Ⅱ 電子工学実習 医療情報学 医用工学演習Ⅰ 医用工学演習Ⅱ 卒業研究	③ ① ① ① ① ① ① ①	R8.3.31付け76歳で定年退職[期間満了](8)		
2	教授	瀧本 将人	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学演習 分子医化学 医療総論 分子病態生理学 プロジェクトスキルⅡ 臨床医学総論Ⅰ 臨床医学総論Ⅱ 臨床医学総論Ⅲ 臨床医学総論Ⅳ 臨床医学総論Ⅴ 臨床医学演習 卒業研究	① ① ① ① ① ③ ① ① ① ① ① ① ① ① ①	R8.3.31付け70歳で定年退職[期間満了](8)		
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2 人	必修	21 科目	必修	19 科目	必修	0 科目	必修	2 科目
	選択	2 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	23 科目	計	21 科目	計	0 科目	計	2 科目

- (注)・**定年により退職した全ての基幹（専任）教員**について、記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」 |
| ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」 |
| ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

学生にはガイダンス等で報告している。

(注)・上記(3)の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認可時 (令和3年度)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について着実に実施すること。	<p>【認可】 遵守事項</p> <p>完成年度前に定年規定に定める退職年齢(65歳)を超える専任教員は2名であり、完成年度末(R8.3.31)までは雇用を継続するが、それ以降は教員任用規程に基づいて、職位・年齢等のバランス及び教育研究分野等を考慮した上で、教員の採用を計画的に進める。(5)(6)(7)(8)</p> <p>R5.4.1より加川宗芳講師(44)が就任した。(5)</p> <p>R6.4.1より岡山助教(34)が就任した。(6)</p>	<p>履行中</p> <p>退職教員の後任補充については、完成年度末(R8.3.31)以降、本学の教員任用規程に基づき進めていく。(5)(6)(7)(8)</p>
設置計画履行状況 調査結果 (令和4年度)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。	<p>【A C】 指摘事項 (改善)</p> <p>令和4年度は、前年度に引き続き以下に取り組んだ。 1.本学科専用のチラシ(臨床工学技士の業務内容、教員体制、予想される進路)を作成し、東海3県を中心に専任教員及び募集グループ職員による高校訪問を実施した。 2.オープンキャンパスによる学科体験参加などのイベントを実施したが、臨床工学技士への認知度も影響して令和5年度も前年度同様に定員の60%にとどまった。(5)</p> <p>令和5年度は、昨年の「今後の実施計画」に記載した事項を中心に 1.本学科専用のチラシを刷新(前年度の内容に加え、北海道で唯一の「1号校大学」であることをPRした内容)し、北海道を中心に専任教員及び募集グループ職員による高校訪問を実施した。 2.オープンキャンパスや学校祭における体験参加イベントの充実。 3.中高生を対象とした模擬講義、体験学習の実施。 4.TVCM、SNSなどを利用した広報活動の強化。 5.特待生制度の拡充 実施したが、臨床工学技士の認知度、学科としての実績がない(国家試験、就職)点が影響して、令和6年度の入学者は定員の31.6%にとどまった。(6)</p>	<p>履行中</p> <p>1.昨年度に続き定員未充足という残念な結果を、本学は真摯かつ重く受け止め、定員充足に向けた更なる対応策に着手している。具体的には、これまで実施してきたテレビCMやweb広告等の広報を効果的かつタイムリーに展開していくことに加え、高校生の進路決定時期の早期化に対応するため、従来、4月下旬から実施してきた訪問活動を、今年から3月中旬に早めて実施している。また、募集グループ職員を2名増員し現在11名体制としううえで、高校訪問に際しては教員と募集グループ担当職員で北海道内を広域に訪問出来るように実施している。その結果12月15日現在、222校、448回訪問し、昨年度よりも好感触な手応えを得ている。</p> <p>2.これに加え、令和6年度の入学生向け「特待生制度の見直し」を行い、更なるテコ入れを実施することとしている。具体的には、従来、一般選抜・大学共通テスト利用選抜の受験生を対象に、1年次の授業料の半額相当を給付するとしていたが、これを来年度の入学者からは、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜の合格者の成績上位者を対象に、保健医療学部においては、在学4年間の授業料を「全額または半額」もしくは1年次の授業料を「全額」免除する制度に変更した。さらに、この制度に特化したTVCMを10月9日から10月22日の間に2局で放映し、PRを実施した。</p> <p>3.また、SNSを活用することにより、多くの高校生等にフォローしていただくことや、オープンキャンパス参加の高校生からの出願率を高めるため、これまで以上に在学生と高校生等との交流機会を増やす実施方法に変更する等、出願率の向上に努めている。特に、Instagramでは、学内の日常生活・学校風景・近隣風景を投稿することにより、高校生をはじめ多くの方々からフォローしていただくことや、進学相談会・オープンキャンパス時に、高校生にLINEのお友達登録をしていただき、LINEボットを活用して情報を伝えることにしたほか、YouTubeでは、高校生のほか多くの方々からフォローしていただけるように、改善を図ることとした。</p> <p>4.1期生が国家試験のステップ試験であるME2種試験があるため、この試験において合格率を90%以上とすることで教育体制の充実をPRポイントとする。 高校訪問、オープンキャンパスで臨床工学技士と本学の利点(国家試験に向けた無駄のないカリキュラム、国家資格取得教員の充実など)について啓蒙する。 5.7月下旬には道外の私立高校(1317校)へ特待生制度告知のチラシ及び大学案内等を郵送した。 6.上記の取り組みに加え、定員充足に係る工夫・施策について、今後も引き続き積極的に検討を行い、継続的に改善に努めることとしている。(5)</p> <p>入学定員充足率の改善を図るため、昨年度までに実施してきた各事項を今年度も引き続き実施するとともに、昨年度までに実施してきた効果等を踏まえ、下記の点に留意した取組をおこなう。 1.高校訪問の強化 昨年度同様に進路決定の早期化に対応するべく3月から高校訪問を実施している。さらに今年3月からは、募集グループ職員に加え、北海道内の高校訪問の強化に向けて募集グループ以外の事務局職員から「学生募集強化プロジェクトメンバー」7名を選抜して高校訪問を実施している。また今年3月に、東北エリア及び関東エリアの高校訪問強化の観点から、仙台と東京に事務局職員を各1名ずつ常駐させ高校訪問を実施している。この結果、今年4月末時点での訪問件数は、北海道エリア181校211回、東北エリア197校197回、関東エリア88校88回、合計466校496回を訪問しており、昨年度よりも高校との接点強化を充実かつ広域で図っている。</p>

				<p>2.模擬講義や体験学習の拡大 オープンキャンパスや学校祭などのイベント時に臨床工学技士業務の魅力を啓蒙し、本学のストロングポイント(教員陣容、無駄のないカリキュラム、充実した設備)をPRする。また、高大連携プロジェクトとして近郊の高校3年生に対して定期的にデリバリークラスを実施する予定である。</p> <p>3.広報活動の充実 テレビコマーシャルのみならずInstagram、LINE、Youtubeなどを積極的に活用し、より深く広く広報活動をおこなう。特に学科Instagramは好評であるため、フォロー数の増加に向けて企画、実施していく。</p> <p>4.総合選抜型試験の入試会場の拡大 令和7年度の学生募集に向けて、総合選抜型試験(前期)の入試会場を従来の札幌1か所から最大全国8か所(北海道内4か所、青森・盛岡・仙台・東京の各1か所)に拡大する方向で準備を進めており、受験生がより受験しやすい体制とする。</p> <p>以上の取り組みに加え、今後の状況を踏まえながら教職員の連携によりフレキシブルな施策を遂行し、定員充足率の改善を図る。(6)</p>
			<p>下記「收容定員充足率が0.45倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、適切な入学定員の見直しを検討すること。」と同様。(7)</p>	<p>下記「收容定員充足率が0.45倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、適切な入学定員の見直しを検討すること。」と同様。(7)</p>
設置計画履行状況 調査結果 (令和5年度)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。	【A C】 指摘事項 (改善)	<p>上記「教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること」と同様。(6)</p> <p>下記「收容定員充足率が0.45倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、適切な入学定員の見直しを検討すること。」と同様。(7)</p>	<p>履行中</p> <p>上記「教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること」と同様。(6)</p> <p>下記「收容定員充足率が0.45倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、適切な入学定員の見直しを検討すること。」と同様。(7)</p>
設置計画履行状況 調査結果 (令和6年度)	收容定員充足率が0.45倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、適切な入学定員の見直しを検討すること。	【A C】 指摘事項 (是正)	<p>入学定員充足率の改善により、收容定員未充足の是正を図るべく、これまで上記「教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。」に記載している各項目等を着実におこなってきた。</p> <p>この結果、令和7年度の入学者数は前年度比6人増と改善はしたものの、入学定員充足率0.41(入学者数25人)、收容定員充足率0.41と、依然として厳しい実績であった。</p> <p>本学科の募集を開始した令和3年度から令和4年度にかけてコロナ禍のため、進学相談会、高校訪問、出前授業、オープンキャンパス等は、大きな制約の中での募集活動にならざるを得なかった。このため北海道の高校生をはじめとして、本学の臨床工学科の認知度は思うように上がらなかった結果、入学定員60%程度に留まってしまったと考えている。この点については、コロナ禍収束後の募集活動等により認知度は向上してきているものの、入学定員充足率が思うように改善してこない最大の要因は、本学科の完成年度である令和7年度末まで卒業生の輩出がないため、高校生が進学先を決める際の大きなポイントとなる国家資格(臨床工学技士)試験の合格実績がまだ無いことが、大きく影響していると考えている。</p> <p>令和7年度は、このような現状等を踏まえ、今後の入学定員充足率の改善に向けた対策(右欄「今後の実施計画」)を引き続き着実におこなう。(7)</p>	<p>履行中</p> <p>入学定員充足率の改善により、收容定員未充足の是正を図るため、上記「教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。」に記載してきた各事項(募集活動の増強、広報活動の充実、オープンキャンパス等を活用した臨床工学技士の魅力発信等)を今年度も引き続き実施するとともに、昨年度までに実施してきた効果等を踏まえ、下記の点にも留意した取組をおこなう。</p> <p>1.国家試験(臨床工学技士)対策の充実とPR強化 ①国家試験のステップ試験であるME2種試験の合格率90%以上に向けた取組継続。 ②進学相談会、高校訪問、出前授業、オープンキャンパス等での臨床工学技士および本学のストロングポイント(国家試験に向けた無駄のないカリキュラム、道内最多となる専任教員数など)のPR。 2.出願者数増加への取組強化 ①重点地区(北海道地区:札幌市、東北地区:青森県)に対する募集活動の強化。 ②オープンキャンパス参加者からの出願者数60~70%確保に向けた取組強化。 3.データベースマーケティングの活用 ①新システム導入による蓄積データを活用した効果的な募集活動への取組強化。 4.在学生(臨床工学科)へのアンケート調査の実施と活用 ①臨床工学科の在学生に対しアンケート調査を実施し、今後の募集活動等に活用。(7)</p>

<p>設置計画履行状況 調査結果 (令和7年度)</p>	<p>収容定員充足率が0.41倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、より効果的な改善策を新たに講じる等、収容定員の更なる充足に努めること。また、令和8年度収容定員充足率が低調な場合には、改めて収容定員の見直しを検討すること。</p>	<p>【A C】 指摘事項 (是正)</p>	<p>高校訪問や進学相談会の実施回数増、DBマーケティングを行ってきた。しかしながら18歳人口の減少や景気の悪化等、厳しい環境下での学生募集活動に苦戦することもあり、現状の本学科における適正な入学(収容)定員の見直しも併せて検討してきた。(8)</p>	<p>履行中</p> <p>本学科を取り巻く環境や入学実績を踏まえ、本学では令和9年4月から、これまでより40名減らした入学定員20名(収容定員80名)とすることを決定し、所定の手続きをすすめていく。(8)</p>
--------------------------------------	--	--------------------------------	--	---

【令和7年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和7年度報告書の記載内容を転記し文末に「(7)(8)」と記載してください。

【令和8年度から新たに調査対象となった学科等又は令和7年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(8)」と記載してください。

- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 臨床工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特記事項なし	特記事項なし

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD委員会 <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回(2025.04.24) 参加状況:出席11名(欠席6名) ・第2回(2025.05.29) 参加状況:出席12名(欠席5名) ・第3回(2025.06.30) 参加状況:出席14名(欠席3名) ・第4回(2025.07.24) 参加状況:出席13名(欠席4名) ・第5回(2025.08.28) 参加状況:出席11名(欠席6名) ・第6回(2025.09.24) 参加状況:出席13名(欠席4名) ・第7回(2025.10.28) 参加状況:出席12名(欠席5名) ・第8回(2025.11.26) 参加状況:出席10名(欠席7名) ・第9回(2025.12.24) 参加状況:出席14名(欠席3名) ・第10回(2026.01.28) 参加状況:出席12名(欠席5名) ・第11回(2026.02.25) 参加状況:出席14名(欠席3名) ・第12回(2026.03.25) 参加状況:出席13名(欠席4名) <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDセミナーの実施計画について ・授業評価アンケートの実施について <p>② 実施状況(FD)</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDセミナーの実施

b 実施方法

- ・ FDセミナー（対面・リモート・オンデマンド配信のハイブリッド形式）
- ・ 過去のFDセミナーをオンデマンドコンテンツとして配信

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 第1回 FDセミナー（2025.08.29）
「現代の大学生が抱える諸問題」「ネット依存とデジタル学習の落とし穴」 参加状況：教員100名
- ・ 第2回 FDセミナー（2025.08.29）
「生成 AI 時代のアクティブラーニング実践」 参加状況：教員100名
- ・ 第3回 FDセミナー（2026.03.10）
「AI を活用した教育方法の推進」 参加状況：教員86名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ FDセミナーおよび授業評価アンケート結果を踏まえた授業方法の改善・検討および実施

② 実施状況（SD）

a 実施内容

- ・ 学内SD研修の実施

b 実施方法

- ・ 対面またはリモート

c 開催状況

- ・ 第1回 SD研修（2025.05.13）
「令和7年度経営計画」 参加状況：全員参加
- ・ 第2回 SD研修（2025.06.24）
「本学の特徴(1)」 参加状況：全員参加
- ・ 第3回 SD研修（2025.07.01）
「中期経営計画」 参加状況：全員参加
- ・ 第4回 SD研修（2025.08.19）
「寄附行為」 参加状況：全員参加
- ・ 第5回 SD研修（2025.09.10）
「内部統制(1)」 参加状況：全員参加
- ・ 第6回 SD研修（2025.10.23）
「内部統制(2)」 参加状況：全員参加
- ・ 第7回 SD研修（2025.11.21）
「本学の特徴(2)」 参加状況：全員参加
- ・ 第8回 SD研修（2025.12.16）
「本学の特徴(3)」 参加状況：全員参加
- ・ 第9回 SD研修（2026.01.20）
「実務研修(予算)」 参加状況：全員参加
- ・ 第10回 SD研修（2026.02.24）
「契約事務とバクラク発議について」 参加状況：全員参加

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 有（前期と後期の2回）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 学内ポータルサイトを通じて公開

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・順調に推移している

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和8年9月 公表予定

b 公表方法

- ・「日本医療大学 年報」を刊行
- ・大学ウェブサイトに公開予定

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・令和8年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受審予定

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和8年度）

- a 公表予定の有無 [(有) ・ 無]

《aで「有」の場合》

- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。